

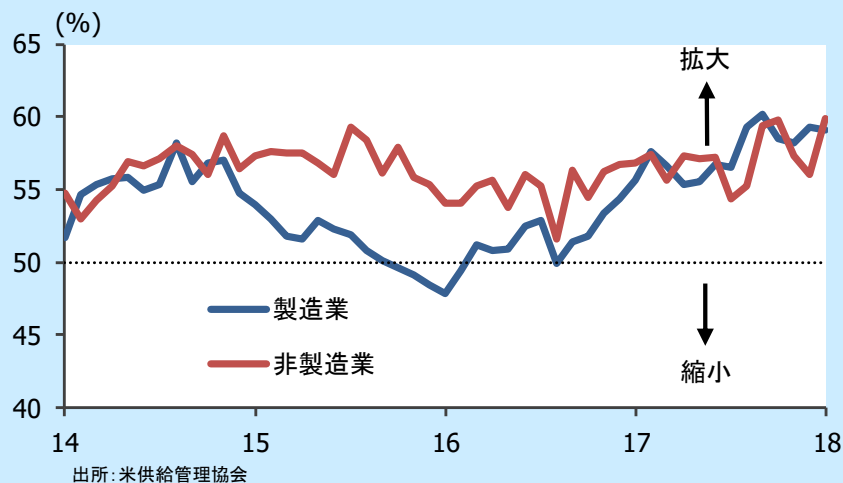
米国：ISM景況指数（2018年1月）

— 製造業・非製造業ともに景況感は高水準 —

MRI Daily Economic Points

February 7, 2018

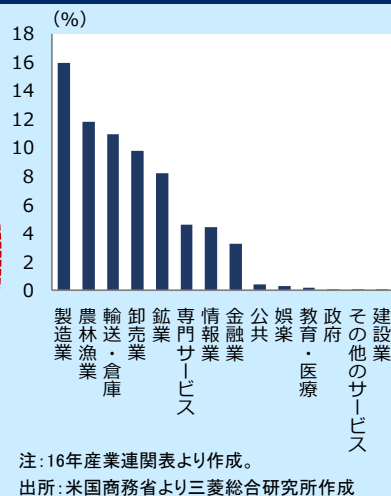
図表1 総合指数



図表2 長期金利の推移



図表3 総生産に占める輸出割合



評価ポイント

今回の結果

- 1月のISM製造業景況指数(総合、2/1公表)は、59.1と前月(59.3)から小幅に低下したものの、依然として高水準を維持した。
- 項目別にみると、入荷遅延(59.1)と在庫(52.3)が上昇した。新規受注(65.4)や生産(64.5)、雇用(54.2)は低下したものの、新規受注と生産は極めて良好な景況感を示す60以上を維持した。業種別では、18業種のうち14業種が50を上回り、幅広い業種で活動が拡大した。
- 1月のISM非製造業景況指数(総合、2/5公表)は、59.9と前月(56.0)から大幅に上昇。3ヶ月ぶりの上昇となった。
- 指数を構成する4項目のうち、新規受注(62.7)や雇用(61.6)の上昇幅が大きかった。業種別では、15業種が50を上回り、幅広い業種で活動拡大が継続した。

基調判断と今後の流れ

- ①堅調な内需や、②世界経済の持ち直し、③トランプ政権による減税への期待などから、企業は良好な景況感を維持している。先行きも、①内需の堅調さや、②法人税減税に支えられ、企業活動は底堅く推移すると予想。
- 下振れ要因は、①NAFTA再交渉が決裂し、保護主義的な動きが加速した場合、カナダやメキシコ向けの輸出価格や輸入物価の上昇などを通じて、企業活動に悪影響が及びうる。また、②現在、上昇傾向にある長期金利が今後も上昇を続けた場合や(図表2)、③レパトリ減税の実施に伴い、海外留保利益が米国内に大量に還流した場合は、ドル高を通じて輸出が押し下げられる恐れがある(図表3)。